

私の

法話

私は理系の大学出身。この経歴について「変わっているね!」と言われることが時々ある。「理系出身でなぜ坊主をしているのか?」という意味だ。「理系であれ文系であれ、誰でも必ず『心』というものを『一つ』持っているでしょう? 仏教というのは『心』を課題にするものだから、私も携わらせてもらって

いるのです。理系出身の私も心を大切にしたいと思っています」と答えている。『note・自己紹介』より)

ある東南アジアの高僧が、災害を受けてお国が悲惨な状況の中でのインタビューで、

「物の栄養と心の栄養のどち

心の栄養

らが大事か」との質問に、「物の栄養より心の栄養が大切だ」と答えられていたことが忘れられない。

その時は「そんな最中なのに、ずいぶん奇特な方だ。物をさておきまず心を優先する

とは……。やはり高僧の言われることは違う」と、感心したものだ。このことがずっと心の引き出しに残っていたのだが、最近ようやくこの意味がわかってきた気がしている。

私たちが何らかの苦境に陥

ったとき、「心の強靱きょうじんさがなかったなら、私の明日はな

い」ということなのだ。

ただ、こんな自明のことに今さら気づいたと言って、人に話すようなことでもないかもしれない。「心の栄養」は万人に必要であり、万人が求めているもののはずである。

心の栄養に携わる者の一人として、拙いながら毎月第4日曜日に行っている法話を、5年前から「ユーチューブ」に投稿している。また法話以外の「放話」をnoteに書いている。

■一言ポイント 物を扱う科学という客観の世界も、心を扱う仏教という主観の世界も、それぞれの住み分けがあるが両方ともが、どんな人にも必要な世界である。

眞宗東派本願寺法主

大谷 光道

